

石垣市観光DX / インバウンド観光急増への対応

現状及び課題、解決策と目指す姿

- 南国、離島の魅力を持つ石垣市は観光が主要産業であり、国内外から年間約140万人の観光客が来訪している。
- 2025年春に韓国、香港、台湾の国際定期便が就航し秋には石垣-台湾定期国際航路の新規就航も控えているが、外国人観光客の来訪者数や行動データが把握できておらず、多言語対応等の受入環境も整備が不十分な状況である。
- 本事業ではデジタル技術を活用して島内の外国人入込客数や行動実態の把握、分析を行うとともに、外国人観光客の受入環境整備に並行して取り組むことで、島内観光施設等での入込客数の増加を図る。
- 本事業終了後も成果の横展開による観光消費額の拡大と、データ活用モデルの自立運用を図ることで、データドリブンな観光の街の実現を目指す。

事業概要

石垣市商工会と島内150の地域事業者が連携し、GBPやSNS、多言語対応ツールを活用して外国人観光客の島内での行動実態の把握を行うとともに、収集したデータを分析のうえ課題解決に資する具体的な打ち手を検証することで、連携事業者における外国人入込客数の増加に取り組む

取組地域： 沖縄県石垣市

コンソーシアム名： 石垣市観光DX推進コンソーシアム

代表事業者： 石垣市商工会

実証内容

1. 口コミサイトでの施設、店舗評価分析及びSNSを利用した利用者属性と行動形態の把握分析
2. 窓口会話翻訳サービスと多言語QRコードによるデータ収集の仕組みの構築と外国人観光客に対する受入環境の整備
3. DMPの活用による地域事業者の観光消費額の向上

目標値

KGI 連携事業者における外国人観光客数(20%向上)

KPI DMP構築に係る島内の連携事業者数(150者)

【地域連携でデータを駆使、事業者の創意工夫で石垣観光を磨く】

